



市民の声を**正しく美しく**伝え実行！！

# 池上まさみ 通信

## まずは、看板設置から

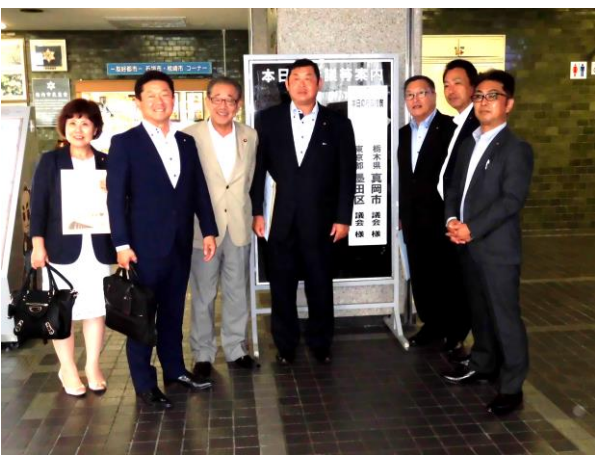
2017年7月発行 発行者 池上まさみ後援会  
〒321-4323 真岡市東沼1564-2  
TEL・FAX 0285-82-6324  
E-mail: yume@ikegami masami.com

山前小学校から山前中学校に向かう直線道路において、道路幅が急に狭くなっているが、今迄に歩道もきちんと整備されておりました。また、制限スピード表示においても、道路幅の広い山前小学校正門前が時速40km制限に対して、山前中学校正門前では、制限速度指示規制がなく、横断歩道もないことから大変危険であるとの声をお聞きしました。

そこで、私は今回、山前地区議員団連名として要望書を作成し、真岡警察署・関係機関と調整して、先ず注意喚起の看板設地が出来ました。今後も、誰もが、安全・安心して住みやすい街づくりの為何かありましたら 皆様ご意見・ご要望をお寄せください。



## 総務常任委員会視察報告



7月10日(月)から12日(水)にかけて、2泊3日の日程で、北海道稚内市及び士別市を視察してまいりました。稚内市は、緊急告知防災ラジオについて、非常時における自動でのスイッチが入るラジオで情報伝達の共有化が図れておりました。また、士別市では、収納率の向上対策として、様々な対策や工夫がなされており、どちらも大変参考になりました。今後の市政に提案していきたいと思っております。

# 登壇させて頂きました。 6/13



6月定例議会は、6月5日（月）から20日（火）に渡っておこなわれました。今議会は、議長・副議長の改選後の初めての議会であり、また、石坂市長にとっても市長就任後、初議会でありました。その中で執行部からの議案は、真岡市副市長の選任や農業委員会委員及び農地利用最適化推進委員の委嘱、平成29年度真岡市一般会計補正予算・真岡市まちのお休み処の設地及び管理条例の一部改正など24議案が可決されました。

質疑・一般質問は、12日・13日に8名の議員が登壇し、私は2日目最後に登壇して、次の4件について執行部の考えを問いました。

## 1件目 とちぎをリードする産業プロジェクトについて

(1) グリーンツーリズム（農山魚村において、自然・文化・人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動）について

- ① 本市のグリーンツーリズムの現状は、どのように取り組んでいるのか。
- ② 真岡式グリーンツーリズムとは、具体的にどのような事業を計画していくのか。また、他の地町村とどのように差別化していく考えなのか。

\* 現状のグリーンツーリズムの取り組みとしては、イチゴ祭り、井頭観光イチゴ園でのイチゴ狩り、尊徳さん田んぼでの米づくり体験、真岡もめんの機織り体験など日帰りで実施している。

また、「都市農村交流研修会」や「芳賀地方グリーンツーリズム検討会」に職員を参加させて情報交換等をおこなっている。

民泊についても、住宅宿泊事業法が改正されたため、今後調査研究を進めていく。

\* 真岡式グリーンツーリズムは、本市の豊富な園芸作物であるイチゴ・トマト・ニラなどの園芸農家に宿泊をしてもらい、農業体験得を通じて稼げる農業を知ってもらう。更に子育て環境・教育環境をはじめ本市の魅力を実感してもらい、移住・定住での起農につなげて差別化をしていく。

## 2件目 まちの活力再生・魅力創出プロジェクトについて

(1) 廃校施設等を活用した地域活性化の取り組みについて

- ① 多くの公共施設の見直し計画がある中で、公約において廃校施設を選択した背景は。
- ② 廃校施設活用について、市長は具体的な考えはあるのか。

(2) 中心市街地リノベーション事業について

- ① 魅力ある市街地を創出する為に「町の駅」等の構想はあるのか。
- ② 沿道景観の修景整備の具体的な内容は、どのようなことを考えているのか。

\* 廃校施設を選択した背景としては、4校いずれも、耐用年数や耐震性の基準をみたとおり、地域づくりや地域活性化の拠点として検討していく必要がある。

\* 廃校施設の具体的な利活用は、現在、先進事例の研究及び検討を進めているところであり、個人的には、平成30年4月以降に、関係機関や地元自治会等の意見を聞きながら協議していく。

\* 「町の駅」の構想は考えていない。平成32年度完成予定の市役所新庁舎整備に合わせて、新庁舎周辺にまちのにぎわいを創出する交流拠点施設の整備を考えている。

\* 沿道景観の修景整備については、人口減少や少子高齢化に伴う市街地の空洞化による空き家や空き店舗が増えているため、土地区画整理や基盤整備、街路事業など魅力ある市街地の創出を考えている。

### 3 件目 青少年健全育成について

(1) 子ども会リーダーキャンプ事業や市施設でのキャンプ事業について

① 野外活動におけるキャンプ生活の効果をどのように考えているのか。

② 現時点で指導者不足の問題があると聞いているが、どう対応しているのか。

(2) キャンプ場の整備について

① 将来的に新規キャンプ場の導入計画はないのか。

② にのみや野外活動センターのキャンプ場の運営時期。時間帯の見直しはにののか。

(3) 青少年団体指導者の確保及び育成について

① 行政として、現在の青年団体の指導者数の推移はどのように分析しているのか。

② 青少年団体の中でも、小学生のスポーツクラブ活動における指導者の確保及び育成についてどのように考えているのか。

\* 小中一貫教育の効果は、中学校に対する不安を覚える児童の減少や異学年の交流による自尊感情や規範意識の向上、教員の指導方法の改善意欲や協力体制への意識向上が認められ一部では効果が上がっているが学校規模・施設・地域実情・児童生徒の実態を含め、将来の導入計画については慎重に検証していくものと考えている。

\* スクールカウンセラー（6名）・スクールソーシャルワーカー（1名）は、教員と異なる専門性を生かして不登校対策やいじめに効果を上げている。

\* いじめに対しての未然対策として、Q-Uテストやスキル教育、そして道徳教育に力を入れている。いじめの対応として、「学校いじめ防止基本方針」に則り対応している。

\* 郷土愛向上の事業としては、各学校の実践を尊重して更に、意識や自覚が養われるように、ふるさと意識の醸成に努め、地域全体で指導していく。

### 広域行政・地域連携の充実について

(1) 芳賀地区広域行政事務組合斎場について

① 真岡市として、斎場の建て替えについての優先順位を含めどのように考えているのか。

(2) 公共交通ネットワークについて

① 市長の考えとして、LRTとの広域連携による公共交通ネットワークの構築とは、具体的にどのようなことを考えているのか。

- \* 小学校統廃合後の庁舎内会議は、2回開催し利活用や売却の検討に加え、調整区域内の先進事例についての研究を進め、H29年度も継続していく。
- \* モデル事業については、公共施設等総合管理計画の基本方針を踏まえ、地元自治会からの提案される利活用について検討していく。
- \* 廃校後の管理体制は、一時的に行政としての目的を持たない普通財産として、適切な維持管理を実施していく。
- \* 更新・解体・売却の優先順位は、真岡市公共施設再配地計画で当面に10年間の計画について、庁内検討会議や市民会議で検討し、順次ホームページ等で周知していく。
- \* 売却のPR方法については、売却情報を市ホームページ及び、ウイークリーニュースもおかに掲載し、栃木県宅地建物取引業協会等へ情報提供していく。

## 市民クラブ会派・無会派視察報告 1/24～26



1月24日(火)から26日(木)にかけて、2泊3日の日程で徳島県勝山町及び和歌山県田辺市を視察してまいりました。勝山町は、葉っぱビジネスによる町おこしについての現状と今後の展望について、一方、田辺市においては、廃校舎利用を地域挙げての事業と捉え、レストランや宿泊施設そして、地産の果物の販売まで手掛け、国や県の補助金を上手に活用しておりました。視察結果を今後の市政運営の見張り役として、本市にも提案する等対応していきたいと思っております。

## 皆さんの疑問にお答え致します。教えて！その疑問？コーナー

### Q【質問？】

真岡市の地域公共交通の利用現状及び市補助金は、どれくらいなのか？

真岡市のシンボルであるSLに新しくD51が展示されて話題となった真岡鉄道を含め、宇都宮東武行きやJR石橋駅行きの民間の路線バス・市内を走るいちごタクシーやコトベリー号の輸送実績は、どのように近年推移しているのか？の声が聞こえてきましたので、調査しました。

### A【お答えいたします！】

H27年度地域公共交通事業費決算総額は、5,014.7万円であります。H27年度のデータでは、真岡鉄道の利用者は、年々減少し平均で3,000人/日以下で7割が高校生です。補助金は約943万円です。SLの輸送実績は年間3.3万人と年々微増の傾向です。路線バス利用者は、年間527,000人で約3割が定期券利用であり、補助金は203万円を交付し、いちごタクシー利用者は、73.9人/日と年々減少傾向で、補助金は600万円で65%が病院への移動手段として利用している。うち火・金曜日が特に混雑している。コトベリー号利用者は、54.8人/日と増加の傾向で、補助金は1,118万円でした。